

研究テーマ名：エコフィード（農産物残さ）利活用試験

○レンコンサイレージは豚の飼料として活用できる

研究期間：平成 23 年度～26 年度， 県費

### 1 背景と目的

茨城県のレンコンは全国一の生産量ですが、流通の過程で多くの残さが排出されています。そこで、地域未利用資源の活用のため、サイレージ化したレンコンの給与が豚の肥育成績に及ぼす影響を検討しました。また、レンコンサイレージの適正な給与割合を明らかにしました。



### 2 研究成果の概要

体重 70kg から 105kg までの三元交雑豚(WLD)を用いて、以下の試験区を設定しました。

- ・20%区：レンコンサイレージを一般配合飼料に重量比で 20%混合 6 頭
- ・30%区：レンコンサイレージを一般配合飼料に重量比で 30%混合 6 頭
- ・対照区：一般配合飼料のみ 6 頭

調査項目は発育成績・飼料摂取量・枝肉形質（と体重、脂肪層の厚さ、ロース長等）・肉質（水分含量、pH、脂肪融点、ドリップロス、保水力、脂肪酸組成、肉色等）としました。

その結果、体重は 30%区が 20%区と対照区に比べ低く推移し、試験期間の日増体量（DG）は 30%区が 730g、20%区が 850g、対照区が 800g でした。

1 頭当たりの飼料摂取量に有意な差は認められませんでした。（表 1）

枝肉形質、肉質については、有意な差は認められませんでした。（表 2）

これらから、レンコンサイレージの給与割合は 20%程度であれば豚の発育に影響なく利用可能と考えられました。

### 3 実用化に向けた対応

養豚の情勢は飼料価格の高騰や環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の動向等、不安要素を抱えています。

そこで、本県で残さが大量に排出されるレンコンが活用されれば有効資源の活用が広げられると思われまます。

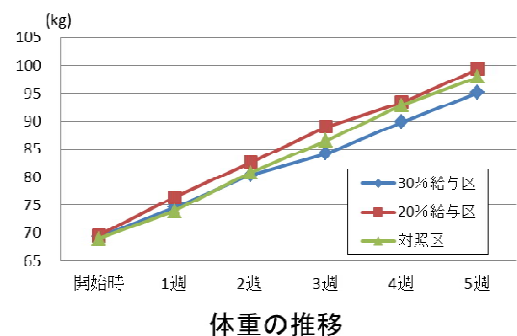


表 1

	DG(g)	飼料量 (kg/頭)	飼料中のレンコンサイレージ量 (kg/頭)
30%区	730	189	57
20%区	850	182	36
対照区	800	136	0

表 2

	外層脂肪	内層脂肪	腎脂肪
30%区	39.6	43.8	49.1
20%区	41.3	44.5	49.5
対照区	36.7	41.6	48.3